こころの言の葉

— 第21集 —

思いをのせた言の葉を
あなたへ

令和5年度　鹿児島市「こころの言の葉」コンクール 作品集

はじめに

鹿児島市教育委員会教育長　　原之園　哲哉

本年度の「こころの言の葉」作品集が出来上がりました。皆様にお届けできることを大変うれしく思います。

「こころの言の葉」コンクールは、「鹿児島市の教育を考える市民会議」の提言を受け、平成15年度から実施されています。これまで、「こころの言の葉」コンクール及び作品集には、各方面から大きな反響をいただいており、今回で21回目を迎えました。

本事業には、中学生とその保護者が面と向かっては恥ずかしくてなかなか言えないようなことを1枚のはがきに託し、心の交流を図り、お互いの存在について考えを深め合うということを趣旨としています。今年も数多くの「言の葉」が寄せられ、その数は14,609点。その内、保護者の部には約1,500点の応募があり、「こころの言の葉」への関心の高さと、本事業の趣旨である保護者と子供の心の交流が図られていることをうかがうことができました。

さらに、8月にはエフエム鹿児島の生放送番組で前年度の入賞作品が朗読されることが恒例となっており、より多くの市民の皆様に親しまれる機会を得たことを大変うれしく思っております。

この作品集には、中学生とその保護者が、お互いに向けて宛てた40編のメッセージが掲載されています。感謝の気持ちを素直に伝える言葉。不安やささやかな願いをそっとつぶやく言葉。自分の反抗期を受け止めながら気持ちを打ち明ける言葉。我が子の成長した姿に一喜一憂しながら大きな心で受け止める言葉。それぞれの思いが言葉の形になった「こころの言の葉」は、読む者の心を大きく揺さぶります。

それは、「言の葉」の形はそれぞれ違っても、その根底に流れる家族への思いは皆に共通するものだからだろうと思います。多くの皆様がこの作品集に触れることで、保護者や子供、家族の在り方について改めて考える契機となることを願っております。

最後に、素晴らしい「こころの言の葉」を寄せてくださった全ての皆様に心から感謝申し上げます。

令和6年1月

目次

思いを伝える言の葉 ―子から家族へ―

できたひこ……4
手紙……5
私の大好きな空間……6
父との思い出……7
母への恩返し……8
一番の友だち……9
私の取扱い説明書……10
わざわざ口にはしないけど……11

思いをつなげる言の葉 ―保護者から子へ―

おまもり……13
いつの間に……14
心のそばに……15
お父さんとお母さんの願い……16
大切な君へ……17
もの知り先生……18
散歩代行……19
写し鏡……20

思いを交える言の葉 ―子から家族へ―

大嫌いの本当の意味……22
無敵のお父さん……22
一日のたのしみ……23
元気になる言葉……23
憧れのお兄ちゃん……24
私のお父さん……24
言えないけれど……25
素直って何ですか？……25
知っている……26
母とのけんか……26
日焼け……27
命をくれてありがとう……27

思いを重ねる言の葉 ―保護者から子へ―

あの頃も今も……29
まばたき、頑張れ……29
チャンスをありがとう……30
未来へ……30
家族想いの君へ……31
私を変えた一言……31
中学生になったあなたへ……32
うまい……32
宝物……33
私の知らない顔……33
広い世界に進み始めた十五歳へ……34
景色……34

令和5年度「こころの言の葉」コンクール入賞者一覧……36
令和5年度「こころの言の葉」コンクール表彰式……37
審査員講評……38
編集後記……41

思いを伝える
言の葉

―― 子から家族へ ――

できたひこ

部活の試合がある日、
「やばい、緊張する。」
と言うと、母はいつも、
「できたひこでいいんだが。」
と微笑みながら言う。
私はこの言葉を聞くと安心して緊張がとける。
どんな時でも「できたひこよ。」と言ってくれる。
私は毎回この言葉に救われている。
だから私はこの言葉が好きだ。

手紙

私のお母さんは、いつも行事のときのお弁当に手紙を入れる。
遠足のときは「いっぱい楽しんでおいで。」
運動会のときは「誰よりも頑張って。応援してるよ。」
短い手紙だけど私に大きな力をくれる。
私にとっては何よりも心強いお守り。
今日は忙しかったから入っていないだろうと思ったときでも必ず入っている。
急いで書いて少しかすれた字。
忘れず書いてくれて嬉しかった。
残り少ない中学校生活。
行事は誰よりも頑張って、楽しんで感謝を伝えたいと思う。

私の大好きな空間

私には一日の最後に必ずすることがある。
それは、一日の出来事をねむそうなお母さんに全て話すこと。
きっとお母さんはねむたくて話なんて聞いていないだろうけど、
それでいい。
たとえ本当に話を聞いていなくても、私はこのお母さんとの
空間が大好きだから。

父との思い出

父は休みの日によく遊んでくれたり、家族での旅行の計画を立てたりしてくれた。
私は父からの確かな愛情をずっと感じて育ってきた。
父は、まるで太陽のような人だった。
いつも私は父の背に乗ってマッサージをした。
父の体は温かかった。
父は料理がうまく、父の作るご飯はいつもおいしかった。
いつまでも、いつまでもずっと一緒にいたかった。
けれど、その願いは叶わなかった。
気づけば私は佐賀にいて、そこには家族みんなが愛した父が横たわっていた。
母の顔は涙でぐしゃぐしゃになり、姉は泣きくずれた。
そんな中、私は父の頭をなでて、今までのお礼を、たった一人の父親に伝えた。
「今までありがとう、頑張ったね。」と。

母への恩返し

私の夢は、誰かの幸せのお手伝いができる産婦人科医になることだ。
私の母は、十年間の不妊治療をし、やっとの思いで私を出産した。
「出産。それは、たくさんの方の支えがあってできる奇跡のことなんだよ。」
私は今まで、母から何度もこの言葉をきいてきた。
中学生になった今、私は心から思う。
もし、母や父、周りの方々が私が生まれてくることを信じて待ち続けてくれなかったら、今の自分はいなかったかもしれない。
私はいつも誰かに生かされている。
だからこそ、今生きていることに心から感謝し、一瞬一瞬を大切に生きていくことが大切なのではないか。
私は今日も、産婦人科医という大きな夢に向かって一歩一歩進み続けていく。
いつか誰かの幸せのお手伝いをし、母に恩返しするために。

一番の友だち

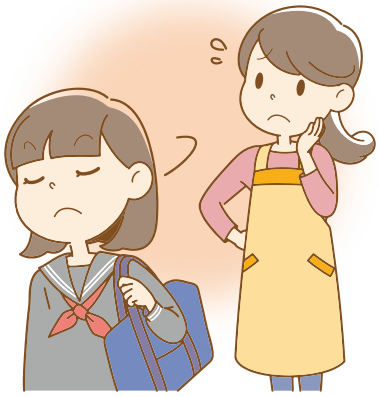
小学三年生の秋、友達から無視され、学校に行きたくないと母に話した。
毎日がつらくて、友達が怖いと。
母はその夜、私の話を黙ってきいていた。
朝起きると、私の机の上に一冊の小さなノートがあった。
中には、たった一ページだけ書かれてある。
「お母さんは、あなたの一番の友だちです。」
あの日、最後のこの一文で、涙があふれるように出てきたのを覚えている。
そして今、このノートは、私のベッドの横の棚の中に、ひっそりとしまってある。
きついことがあったら、今でもこの一文を見て、私は泣く。
泣き終わったら、明日も頑張ろうと思えるから。
母は、私の一番の親友だ。

私の取扱い説明書

私と母は顔だけじゃなく、性格も似ていると思います。
でも、反抗期ですぐイライラしてしまうので、対処法に困ったら、
これを意識してくれると嬉しいです。

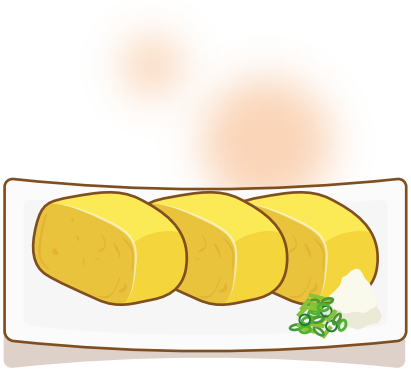
一. 朝が苦手なので優しく起こしてみてください。
二. 勉強をしていないときは遠慮なく怒ってください。
三. 私が好きなアイドルを語っているときは、嘘でもいいので共感
　してください。
四. テストの点が良かったり、試合で勝ったりしたら、たくさん
　ほめてください。

お母さんに似て頑固だし、反抗期で素直じゃないけど、本当は
お母さんが大好きで、尊敬しているから、面倒くさい私だけど、
優しく寄り添ってほしいです。
私も努力するので、頑張りましょう。



わざわざ口にはしないけど

時々、台所から僕を呼ぶ声が聞こえる。
父だ。
僕の父は口下手である。
しかし、台所に立つ父は少し多弁になる。
自分が子どもの頃、料理をしたことも、手伝いをしたこともなく、料理が全くできないことを大人になってから後悔したそうだ。
「今時、男も料理ができた方がいい。一人暮らしのときにも役に立つ。」
と、言う。
僕と父が会話をするのは、この時だ。
そんな父が、「部活に行く前に食べて行きなさい。」と玉子焼きを巻いてくれた。
ちょっと塩辛い。
母に話すと、「部活で汗をかくから、熱中症にならないようになんじゃない？」と言っていた。
いつもは口下手な父だから、その口下手の裏にまさかそんな考えがあったなんて、思ってもみなかった。
あの塩辛さには、そんな気遣いがあったんだね。
ありがとう、お父さん。



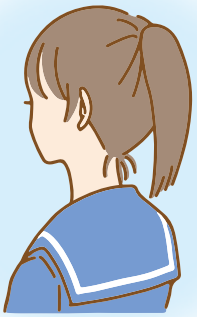
思いをつなげる
言の葉
―― 保護者から子へ ――

おまもり

「いってらっしゃい」
「いってきます」
我が家では毎朝の習慣がある。
それは「握手(あくしゅ)でいってらっしゃい」
五秒間、手のぬくもりを感じて送り出すこと。
慌(あわ)てている時は落ち着くように、不安な時は大丈夫(だいじょうぶ)だよと安心するように、その日の気分や気持ちを感じとれる大事なスキンシップだ。
夏休み、いつもと逆の送り出される握手。
「いってらっしゃい。今日もお仕事頑張(がんば)ってね。」
「ありがとう。いってきます。」
子どものぬくもりとあたたかい言葉をおまもりに、今日も私は頑張れています。

いつの間に

久しぶりの授業参観。
授業終了後、「お母さん」と私に声をかける娘(むすめ)の表情を見て「はっ」と驚(おどろ)いた。
自宅でみる末っ子の幼い表情はかけらもなく、中学生らしい大人びた表情。
こんな表情をするんだと娘の意外な一面をみて、何だかとてもうれしく、有難(ありがた)い気持ちになった。
私一人だけではなく、多くの先生や周りの友達に支えられ、みんなで育ててもらったという有難い気持ち。
そして何より、色々なことがありながらも毎日がんばって学校生活を送ってきた娘を誇(ほこ)らしく思う気持ちがぶわっとおしよせてきた。
あの一コマは私の子育ての中で忘れられない場面になりそうだ。
たくましく成長してくれて　ありがとう!!



心のそばに

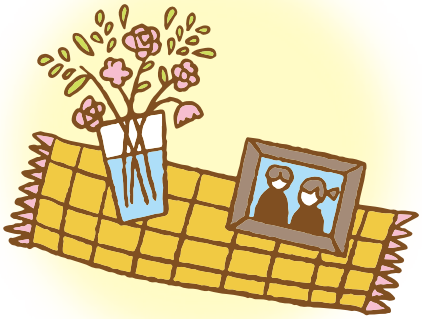
あなたが十四歳になった頃から何となく、私とあなたの間に距離ができている様に感じていた。
少し口数が減り、あまり自分のことを話さなくなった。
「思春期？反抗期？」と思ったりもしたけど、そっとしておいたら
そのうち話すかな…と思っていた。
ある晩、夜中に寝ていたと思っていたあなたが二階から降りて来た。
目に涙をため、私に悩みを打ち明けてきた。
打ち明けてくれた嬉しさよりも、そっとしておく…ではなくあなたがそうなるまでほったらかしにしていただけだった…と思うと、胸が痛かった。
もうすぐ十五歳になるあなた。
今からもまだまだ悩むことがあると思う。
あなたを産んで十五年。
まだ一人前の母親になれていないけど、家が、私が、あなたの一番の心の拠り所になれる様あなたの心により添っていきたい。

お父さんとお母さんの願い

お父さんがお空に単身赴任してから、四か月がたったね
まだまだお父さんを思い出して悲しくなることもあるけど
明るく前向きに生きようとしているあなたの姿に
お母さんはいつも励まされているよ

「お父さんに喜んでもらうんだ。」
そう言って黒目がちの大きな瞳を輝かせ
大好きな絵と向き合うときの表情
その真剣なまなざしがお父さんにそっくりだね

ベストを尽くそうとがんばるあなたを
いつも誇りに思っているよ
これからの人生が
あなたが思い描いたとおりになりますように



大切な君へ！

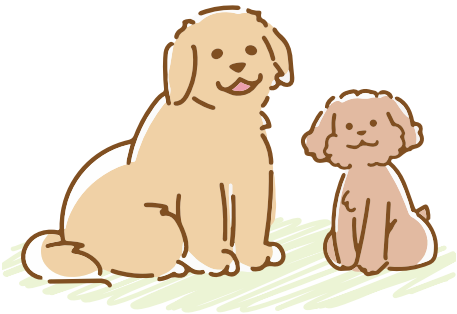
すぐにうざい！と言う息子（むすこ）よ。
そりゃそうだ!!
君が思っている何千倍も
大切に思っているのだから。

もの知り先生

「ねぇ　お母さん、これ知ってる？」
と聞く、キラキラした愛らしい顔。
つい知らないふりで、生徒役。

散歩代行

単身赴任している私に代わって、期間限定で愛犬のお散歩をしてくれている君。
いつもありがとう。
でも、散歩に出るとなかなか帰ってこないとお母さんが愚痴ってたぞ。
勉強したくないのか、散歩に夢中になりすぎるのかってね。
でも、先日こっちに旅行に来たおばあちゃんから聞いた。
「元気？手伝うことない？」と言って家に駆け込んできて、しっかり手伝いをして、
麦と仲良く帰っていくらしいじゃないか。
じいちゃんもばあちゃんもそれがとってもうれしいらしく、その話をしている
ばあちゃんは目に涙をいっぱい溜めていたよ。
甘えてばかりの息子だと思っていたけれど、いつの間にかお兄ちゃんに
なってるんだね。
きちんと言えよなあ。
じいちゃん家に行ってきたこと。
家族のこと気に掛ける仕事まで頼んだつもりはないけれど、うれしかったよ。
もうしばらく代行よろしくね。



写し鏡

私が笑えば、あなたも笑い
私が泣けば、あなたも泣き
私が怒(おこ)れば、あなたも怒り
まるで写し鏡のよう。
あなたが笑えば、私は幸せ。
あなたが泣くと、私も悲しい。
あなたには、いつも笑っていてほしい。
そう願うから、私も毎日ごきげんで過ごせる親でありたい。

思いを交える
言の葉

―― 子から家族へ ――

大嫌いの本当の意味

大嫌い。
二週間に一度ほど母に向かって言ってしまう言葉。
母と対立することはあまりないが、ときどき口げんかをすることがある。
そのたびに私は母に大嫌いと言う。
他にも何をされたかよく覚えていないが何度も大嫌いと言ってしまう。
しかし母はその言葉を重くうけ止めず、
「別にいいよ。それでもお母さんは大好きだから。」と言う。
きっと母も分かっている。
私の大嫌いは本気じゃなくて少し時間がたつと大好きに変わるものだということを。
大嫌いの本当の意味をきっと母は分かっている。
でも大嫌いよりは大好きの方がうれしいよね。
お母さん。大好きだよ。

無敵のお父さん

僕のお父さんは二回大ケガをした。
職業は大工なので、仕事柄少しのケガは多いかもしれない。
でも、その二回のケガはとても大きく、数か月入院したこともある。
記憶にあるのは小学校六年生の時のケガ。
ちょうど卒業式の二日前だった。
入院は絶対で、思わず僕はお父さんが卒業式に来られないことと、寂しさで泣いてしまった。
でも父は腕にギプスを巻きながら来てくれた。
僕はその時も嬉しさで涙目になった。
入学式は当然来られなかったが、もう僕は充分だった。
退院してもう元気になったが、その時を思い出すと今でも泣けてしまいそうだ。
うまく気持ちの整理がお互いできなくて軽くぶつかってしまうけど、僕はずっと無敵のお父さんに憧れながら育っている。

一日のたのしみ

私は家に帰ると必ずすることがあります。
それは、リビングで夜ご飯を食べながら、今日あった出来事を話し合う時間です。
そのたびにお母さんは、いろいろなところを褒めてくれます。
お店でのお会計の後はお礼を言うこと。
話が終わったら「ありがとうございました」と言うこと。
道を譲ってくれた車にはきちんと頭を下げること。
困っている人がいたら声をかけて助けること。
他の人がやりたがらないことほど自分が一番に行動することなど他にも、今までに褒めてもらったことは沢山あります。
褒められるたびに、嬉しくてたまらない気持ちになります。
だから私はこの時間が大好きだし、一日のたのしみでもあります。
だからねお母さん私がもし、反抗期になったとしても、この時間をなくさないでね。

元気になる言葉

「これも経験やな。」私の父の口ぐせだ。
仕事の関係で大阪に住む父と、私はたまに電話をしている。
父とはわりと仲が良いため、たくさんのことを話し、気付いたら一時間経っていたということも珍しくない。
そして、私がどんな失敗をしたと言っても、どんなことをしてみたいと言っても、父はよく「これも経験やな。」と言うのだ。
落ち込んだ時にこの言葉をかけてくれると、とても元気が出る。
だから私は、「これも経験だ。」という言葉を思い出すようにしている。
私は、中学二年生の三学期から大阪に転校する予定だ。
もちろん今のクラスのメンバーと卒業できないのは悲しい。
でも、これも人生の「経験」だ。
前を向いて、明るい気持ちで、どんなことも「経験」なのを忘れず過ごしたい。
お父さん、元気になる言葉をありがとう。

憧れのお兄ちゃん

お兄ちゃんが中学生になる時、空手が強くなるために離れて暮らして、五年がたった。
四年生だった私は、その頃何も感じていなかった。
たまに帰って来るお兄ちゃんはどんどん背が伸び、声も低くなっていた。
両親が、兄に、
「今夜は、何が食べたい？」
と、聞いても、兄は必ず
「何でもいいよ、〇〇は何が食べたい？」
と、聞いてくれる。
思い起こせば、幼い頃からいつも兄は、妹の私に好きなものを譲ってくれていた。
そんな強くて優しい兄が私の憧れだ。
今年、四十三代目空手道部主将に選ばれた私の兄は後輩からも好かれ、みんなの兄になっている。

私のお父さん

私は父のことが少し苦手だ。
普通のお父さんは、もっとしっかりしていて、頼りがいがあると思う。
けれど、それに比べて、私の父はいつもふざけてばかりだ。
本当は優しく接したいが、真面目じゃない態度や、面白くもない冗談を言ったり、しつこく話しかけてきたりすることが迷惑だから、いつも冷たく接してしまうのだ。
ある日父は、宿題で分からない問題に悩んでいた私に解き方を教えてくれた。
その間、父は普段とは違い、真剣な顔で私に向き合ってくれた。
父は、私が思っていたよりもずっと真面目だった。
今思えば、父がいつもふざけていたのは、私ともっと仲良くなるためだったのかも知れない。
今は、いつもの父ともう少し真剣に向き合ってみたいと思っている。

言えないけれど

中学生になってから、父と話す機会が少なくなった。
小学校の頃はよく出かけて遊んで、姉妹の中で、一番父の近くにいたのは私だった。
でも、今は違う。
近くにいるどころか話してすらいない。
母は仕事が忙しく、帰宅は二十三時頃だ。
そのため、いつも父が夕食、風呂掃除など家事をしてくれる。
時々手伝うが、何も話さない。
心の中では「ありがとう」と感謝の気持ちがあるのに言葉にできない。
塾の送迎は父がしてくれる。
車の中に二人。
この空気が嫌いで、とある塾の日、「バスで帰る」と連絡した。
塾が終わると父から「迎え行きます」と来た。
正直、嬉しかった。
無言で帰宅するとテーブルに、「塾の送迎します」とメモと一緒に父が作った夕食があった。
今は言えないけれどいつか、感謝を伝えたい。

素直って何ですか？

ねえ、お母さん。
気付いてよ。
「素直」って言葉に私が苦しんでいることを。
素直ってよく分からないよ。
けんかした時はいつも必ず「素直になりなさい。」って言うけどさ、素直って何ですか。
黙って従えってことですか。
いくらおんなじ家族だとしても、私のことは分からないでしょ。
今の私には素直な私は見当たらない。
だからお互いにそのままの自分を認めあって、私を見つけて。
いや、見つけられなくてもいい。
せめて、一緒に探してよ。
探して、見つけられたら、今度は素直な私でごめんなさいって謝るから。
素直な気持ちでありがとうって伝えるから。

知っている

僕は気づいている。
夜おそくにねて朝早く起きている。
恐らく毎日四時間しかねていない。
自分もこの年になると、色々な感情がわいてくる。
たまにふと思う。
子ども三人を一人で育てるなんてどれほどむずかしいだろう。
それを当然のようにやりとげるのは本当にすごいと思う。
しかし、無理しすぎだと思う。
だからといって僕は、手伝う以外何もできない。
気をつかっているのも知っている。
自分がしたいことを後にして、三人にゆずるという優しさ。
このような人を嫌いになる人はいるのだろうか。
仕事、家事、すべてをこなしてもつかれた所をかくしている。
たまには休んで体調を整えてほしい。
育ててくれたという恩は返しても返しきれない。
そういえばはずかしくて伝えたこともなかった。
「ありがとう。」

母とのけんか

この前の夜、母とけんかをしてしまい、「明日の朝ご飯しらないから。自分で作りなさい。」と強く言われた。
私はいやな気持ちになったため、怒って自分の部屋がある二階にとじこもった。
次の日の朝、私は部活の朝練があるため、家族より早く起き、昨日のけんかを引きずりながら一階に行った。
そして、机に行くと、机の上にご飯といっしょに手紙が置いてあった。
その手紙を見ると、「昨日は強く言ってごめん。ご飯作ったから食べてね。朝練頑張って。」と書いてあった。
私は、母の悪かった所を心の中でずっと責めていたけど、母は自分の反省をして私にごめんねと伝えてくれたため、まだ私は子供だなとはずかしく思った。
ママ、こちらこそごめんね。
朝練頑張るね。

日焼け

「今年こそは絶対に日焼けしない。」
僕の母は毎年こう宣言する。
しかし、五月の頃にはもうこんがり日焼けしていて、夏が終わる頃には、僕のうでと比べ合っている。
母は毎度のようにぶつぶつ落ち込んでいるが、僕はこっそりうれしい気持ちでいる。
なぜなら、いつもサッカーの試合に応えんに来てくれたり、練習やランニングに付き合ってくれたりしているのが原因だと分かっているからだ。
僕が辛い時は一緒に悔しがって、僕がうれしい時は僕よりも喜んでくれる。
僕が毎日楽しく過ごせるのは、そんな母の優しさやサポートがあるからということを忘れてはいけないと思う。
来年も同じ宣言を聞けるのが今からとても楽しみだ。
「いつもありがとう。」

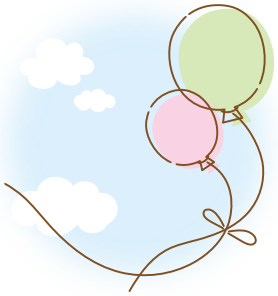
命をくれてありがとう

私が七か月の早産で生まれて大変だったことは知ってる。
だけど、生まれる前から大変だったことを姉から聞いた。
救急車で運ばれて、「母体と赤ちゃんどちらを優先しますか。」母は「赤ちゃんを助けてください。」と言ったそうだ。
その時小学四年生だった姉は学校で泣いた。
その話を聞いて胸が苦しくなった。
産んでくれてありがとう。
命懸けで助けてくれてありがとう。
十三年間育ててくれてありがとう。
大きな大きな感謝を伝えたい。
自分の命を大切にするね。
これからもよろしく。

思いを重ねる
言の葉
―― 保護者から子へ ――

あの頃も今も

「小さい頃は素直で可愛かったなぁ」と反抗期の入った娘に最近私がよく言う言葉。
「どうせ今は反抗期で可愛くないですよ」と口を尖らせて私に言う娘。
機嫌が悪い時は、返事も生返事、目も合わせない。
母はめげずに、何度も同じ質問をして、何度も娘の顔をのぞく。
何度も言われて、やっと私の顔を見た時、変顔して笑わせたら、あの頃と変わらない笑顔で吹き出しながら私を見る。
「あの頃も今も可愛いよ」



まばたき、頑張れ

生まれつき左目のまばたきが下手っぴだったあなた。
四つのとき、まばたきが上手にできるように手術することになりました。
こんな小さい体に…と辛く悲しく、満足に産んであげられなかったことを責めもしました。
けれど四つのあなたは、入院中、驚くほどお利口さん。
怖がって泣くこともせず、手術の意味を小さいなりに理解しようとしていたのだと思います。
病院で大声で泣いたのは、術後の麻酔がきれたときのたった一度だけ。
まばたきは今も少し苦手。
他の人には簡単なことが自分にとっては難しい。
人の痛みを想像できる、優しい子に育ちました。
まぶたの弱点はあなたの心の強さの根底にあるのかもしれません。
四つのあの日のあなたの我慢強さは家族の誇りです。
あなたに負けないようにと心に誓う毎日です。

チャンスをありがとう

「ぼく、ハイキングしてみたい。」
あなたのその一言から、お父さんと三人で登山を始めましたね。
年の離れたお兄ちゃんたちの用事で忙しく、あなたとの時間を作って来られなかったお母さんにとって挽回のチャンスでした。
山に登りながら、たくさんの話をしますね。
自然のこと、学校のこと、好きな歌のこと。
忙しない日常では知り得ることのないあなたを知ることができる山の時間は、お母さんにとって宝物です。
家族の中で一番守られる存在だったあなたが、近頃は、ペースの遅いお母さんを心配して、振り返っては立ち止まって声をかけてくれるようになりました。
いつの間にか成長したあなたの姿を見るたびに胸が熱くなります。
これも、あなたがお母さんにチャンスをくれたからです。ありがとう。
これからもたくさんの山に登って、あなたと多くの時間を共有し、あなたの成長を見守らせてくださいね。

未来へ

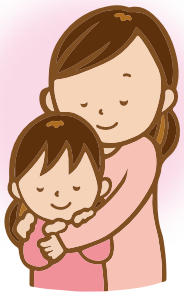
今まで学校が楽しいと言っていたあなたが、ある夜、泣きだすことがあった。
胸の内をすべて吐き出させた。
マンガのようにワンワン泣いた。
私も泣いた。
中学三年生、人生まだまだ長い。
つらい日々を過ごした分だけ成長につながる。
強くなること、私の経験もいっぱい話をした。
つらいことがあっても休まず登校し、学ぶあなたを私は誇りに思う。
夏休みに高校の体験入学で他校の生徒と笑顔で見学するあなたがとても立派に見え誇らしかった。
自分次第で未来は変えられる！
私たちはいつもあなたの味方だよ。
これからもずっと応援します。

家族想いの君へ

中一の息子がまだ二歳の頃妹が生まれ、あなたはグッと涙を堪え「僕は大丈夫。ママは赤ちゃんのところに居てあげてね」と私に言ってくれましたね。
甘えたいだろうにと思うとギュッと胸が苦しくなったのを鮮明に憶えています。
それから八年後弟が生まれ、妹に一言「お姉さんになるということは大変なんだぞ」と偉そうに言っていて長男にたくさん我慢をさせてしまっていたことに気づかされました。
小さい頃から手がかかり心配ばかりしていた様に感じますが、今ではとても逞しく本当に優しく成長してくれたあなたに助けてもらうことも多くなりました。
いつもありがとう。
これからもあなたらしく素直に成長していってくださいね。

私を変えた一言

「お母さんは、お姉ちゃんのことばかりに一生懸命だ。」
あなたがそう言ったのは、何年前のことだったでしょう。
次女で手がかからず、しっかり者のあなたに、無意識に甘えていたのかもしれませんね。
「母」としてハッとさせられた一言でした。
「あなたも同じ様に大切な娘」だと、今はあなたの心にしっかりと伝わっていますか？



中学生になったあなたへ

あなたが三歳の時に妹が生まれて、「お兄ちゃんになったから！」と、嬉しそうにお着替えも、お風呂もご飯を食べるのも何でも自分で頑張っていたね。
母も赤ちゃんのお世話で大変で、あなたはしっかりしているから、とよく見られていなかったのでしょう。
ある日、「母は僕がいらないの？」と泣きながら言ったね。
こんなに小さな心で悩んでいて、母に負担をかけないように頑張りながら、でも、淋しくて我慢してどうしようもなくなって泣きながら声をしぼりだしていたね。
母は、あなたを抱きしめて、大好きだよ、大事だよ、と二人で大泣きしたね。
思春期のあなたは、この日を覚えていても忘れたフリをすると思いますが、これからも母は、あなたを大好きだと伝えていきます。
反抗期のあなたが助けてほしい時に一人で悩まず、母に声を出せるように、いつでもあなたを大切だと伝えていきます。

子へ

うまい

親子二人での生活も一年が過ぎようとしているね。
中学二年生、少し反抗期のあなたは、話をすることも少なくなり、お母さんの話にも一言で答えることしかしなくなった。
でもそんなあなたが唯一話をしてくれることそれは、「うまい」からはじまる食べ物の話。
食べることが大好きなんだね。
お母さんは、今日もあなたの「うまい」を聞きたくてご飯を作ります。

宝物

出産、育児が落ち着いて、数年ぶりに外で働き始めた時。
仕事が覚えられず、同じミスを繰り返し、（私はなんてダメな人間なんだろう）とボロ雑巾の様な気持ちで帰宅した時、
「お母さんお母さん！お帰りお母さん！」と、満面の笑顔で出迎えてくれた。
同じく数年ぶりに舞台でピアノを弾いて大失敗した時は、「ピアノの国の女の子」なんて絵本を作り励ましてくれた。
小さい頃描いてくれた絵にはいつも「おかあさんだいすき」のつたない文字が添えられている。
どんな時も私に向けてくれる無垢な気持ちにどれだけ救われてきたか。
心の中にしまっている宝物。

私の知らない顔

学校では面白いキャラクターらしい。
家では家族で一番しゃべらないはずなのに…。
私たちが知っている君は君じゃないのか。
本当の君が知りたいから今夜はお互いの携帯を置いていっぱい話を聞かせてよ。
私の知らない顔を教えてよ。

広い世界に進み始めた十五歳へ

インフルエンザにかかってしまい、久しぶりに隣で寝ました。
寝顔は赤ちゃんの頃のままなのに、体はずいぶんと大きくなったなと思いました。
あの頃は、君の全てを知っているのが私だったけれど、いつの間にかどんどん広い世界を築いていますね。
学校のこと、進路のこと、心配な気持ちもあるけれど、親だから、信じて応援しています。
だから、困ったときやつらいときは必ず頼ってください。
何を置いても助けに行きます。

子へ

景色

私は、あなたが生まれてから、見える景色が変わりました。
普通の公園が、とっても楽しい公園になり、普段の食事が、とっても美味しくなりました。
あなたが居る景色は、とてもキラキラしています。
ありがとう。
これから先、たくさんの人に出会うでしょう。
その人達にも、あなたのキラキラを見せてあげてくださいね。

入賞者・表彰式

大賞・準大賞・優秀賞および入選の個人名と、
団体特別賞の学校名は次のとおりです。

令和５年度「こころの言の葉」コンクール　入賞者一覧

応募総数　14,609 点（中学生 13,106 点　保護者 1,503 点）

	中学生の部	保護者の部
大　賞	藏　屋　愛　梨	橋　口　美奈子
準大賞	堀ノ内　晴志朗	山　口　奈　美
準大賞	角　倉　　花	今柳田　いづみ
優秀賞	桑　園　もも花	上別府　直　子
優秀賞	鶴　田　花　音	浦　田　結　嘉
優秀賞	辻　　明　唯	本　房　倫　恵
優秀賞	千　竈　由愛來	大　窪　あゆみ
優秀賞	堀　脇　拓　成	夏　迫　裕　作
入　選	河　東　真　珠	中　野　千　春
入　選	福　永　さ　ら	中　村　久美子
入　選	上　東　夢　歌	河　村　倫　美
入　選	濱　崎　美　侑	冨　山　さなえ
入　選	大　良　悠　太	山　下　り　ち
入　選	鳥　越　翔　太	川　野　里　恵
入　選	壽　　梨　華	北　山　みさと
入　選	小　牧　由　依	山　村　友　子
入　選	永　吉　　葵	水　流　聡　子
入　選	渡　邉　優　真	南　　幸　子
入　選	園　田　悠里菜	宮　里　麻衣子
入　選	長　野　心　希	吉　永　　緑

団体特別賞　鹿児島市立　西紫原中学校

令和５年度「こころの言の葉」コンクール　表彰式

～令和５年11月25日（土）　鹿児島市教育総合センター　3F体育室～

「こころの言の葉」コンクール表彰式　集合写真

受賞者代表あいさつ

表彰式の様子

審査委員長
講評

審査員講評

審査委員長　　原田　義則　先生

親愛なる子どもへ

あなたは私の一番の宝物です。あなたの夢を応援し、笑顔を見ることが私の幸せです。

私はいつまでもあなたを愛しています。

あなたを想う母より　チャットＧＰＴ

これは、親子の愛情をテーマに、今話題のチャットＧＰＴに作らせた「言の葉」です。その精度に驚かされますが、何かしっくりきません。この文章からは、「親子の物語」が思い浮かばないのです。

そこで、チャットＧＰＴにその理由を質問しますと、「人工知能は、人間の感情や関係についてシミュレーションすることができますが、それが本当の親子の物語と同じものかどうかは、理解できません」と答えます。つまり、人間が思春期で経験すること―他人とぶつかり、励まし合い、前へ踏み出していくこと―が、いかに大切であるか。「言の葉」で自分自身を表現し発見していくことがいかに重要であるかを、感じざるを得ません。

令和５年度は、中学生の部に13,106点、保護者の部に1,503点の作品が寄せられました。そこには、本当の「親子の物語」がありました。多くの人にこの作品集を共有していただけたら幸いです。

本コンクールは、今回で第21回を迎えました。関係各位の皆様に心からお礼を申し上げますとともに、今後のさらなるご発展を祈念します。

鹿児島大学教育学部　国語教育講座准教授

蔵屋　留美子　先生

エフエム鹿児島８月限定企画として、朗読で前年度の「こころの言の葉」作品集をご紹介しています。毎年朗読しながら、時にほろりとしたり、くすりとしたり、ドキッとしたり。涙で下読みもままならない時もありました。リスナーの皆さんからも共感と感動のお声をいただきます。

そして今年度は初めて、審査員として関わらせていただきました。寄せられた 作品の数にまず驚き、そのひとつひとつの親子のこころの風景に胸がいっぱいになりました。そんな中、特に印象的だったのが、子育てを振り返って綴られた 保護者の作品です。小さかった我が子の愛らしいエピソードばかりではなく、子育ての反省や、辛い思い出もありましたが、全てが大切な宝物であり、思い出すことでまた奮起し子供と向き合える、そんな想いが伝わって来ました。一方で、子供たちの作品の中には親へのストレートな心情の吐露もあり、いつの間にか 中学生の頃に戻った自分が大いに共感していました。

多様性の時代、個の時代などと言われ、家族の在り方や親子関係もさまざま。 時に煩わしいと思うこともあるかもしれませんが、お互いを思いやる気持ちを 言葉にする大切さを改めて実感し、より多くの人に伝えたいと思います。

最後に、この作品集を手に取られたら目で読むばかりでなく、是非声に出しても読んでみてください。より言の葉の一葉一葉が心に重なって、温かい想いが 広がることでしょう。

ナレーター

西　ゆう子　先生

今年もたくさんの「こころの言の葉」を読ませていただきました。日頃面と向かって言えない「子と保護者」双方が思いを綴る中で、互いの大切さに気付き、新たな交流へと繋がるきっかけになったのではないでしょうか。

これは古代の人が言葉には神秘的な力が宿ると考える「言霊（ことだま）」に通じるのではとふと感じました。宴の終わりを「発展する」イメージに通じる「お開き」と言う習わしもあります。令和の今、お一人お一人の「言の葉」に家族を明るい方へ導く言霊を感じたのです。子供たちは母親の「できたひこ」は緊張したときに救われる言葉、父親の「これも経験やな」は落ち込んだときに元気になる言葉、「お母さんはあなたの一番の友達です」は、辛いときに切り替えられる「言の葉」と書いています。

また、清々（すがすが）しい素直さに言霊ありと感じました。保護者の「ほったらかしにしていただけだったと胸が痛かった」というＩ（アイ）メッセージ。母子喧嘩の後、先に謝り「折り合い」をつけた母親に対し、子供の「まだ子供だな」の自省の言の葉。眠そうな母に、一日の出来事を話すその空間が大好きと言う「言の葉」等です。

令和に書かれた一つ一つの手紙の「言霊」は元気をもらいたいなというときに再読すると必ずや力をくれることでしょう。子育てのヒントのみならず、子育てが終わった私もたくさんの希望と力をもらい感謝の心でいっぱいです。「こころの言の葉」第21集がたくさんの方々の心に届きますように。

元スクールカウンセラー

審査員講評

中島　正義　先生

思春期の子育てでは、親子のコミュニケーションがなかなかとれません。でも今回の作品を審査させていただいて、みんな口には出さなくても、親も子もお互いに愛情をもって愛おしく感じていることや感謝していることが伝わってきて、あたたかい気持ちになりました。

私たちは一人では決して生きていけません。家庭でも学校でも、人と人が関わり合い、繋がり合い、理解し合い、励まし合い、支え合い、助け合っていくことが必要です。人間関係が希薄になってきた世の中だからこそ、その大切さを忘れてはいけないと思います。

ぜひ皆さんの心の中にある思いを、ご家族に直接伝えていただいて、鹿児島市に笑顔がいっぱいの家庭が増えていって欲しいと願っています。素晴らしい作品を応募してくださった全ての皆さん、本当にありがとうございました。

保護者代表

池田　修　先生

審査を終えた今、「親子や家族の絆は殊更に深く、代え難いものであるということ、そしていつの時代も親子や家族は愛おしいものであるということ」を実感し、そして安堵することでした。

全ての作品に、家族模様があり、作者が言い出せない「切なる思い」や「感謝」というこころの言の葉という葉っぱをいっぱいに広げているように感じました。言葉で素直に伝えればどんなに幸せか、どんなに心がほっとするか、思春期真っ只中の中学生やその保護者、家族の切実な思いを感じ、在りし少年時代を思い出しながら、ひとつひとつの作品を読ませていただきました。たとえ言葉に出して伝えられなくても、お互いを思いやり、親子や家族がいつまでも心の拠り所であるよう、子も親の姿を手本に紡いでほしいと思います。世知辛い世の中、「こころの言の葉」がこの先も末永く続くとともに、この作品集が家庭や学校、地域社会で広く愛読されることを願い講評の結びとします。

鹿児島市教育委員会　青少年課　指導主事

編集後記

関係の皆様の御尽力により、今年度も「こころの言の葉」コンクール作品集を製本することができました。第21集を皆様の元へお届けします。

さて、「中学生とその保護者の心の交流」を所期の目的として始まった「こころの言の葉」コンクールですが、本年度の応募総数は14,609点、そのうち保護者の部には約1,500点の応募があり、本事業の趣旨が着実に浸透していることが感じられました。各中学校でのこれまでの取組に感謝申し上げます。

本作品集につきましては、毎年、多方面から反響をいただいております。現代は変化が激しい時代と言われますが、家族のお互いへの思いが形になった「言の葉」は、いつの時代も読む者に感動を与える不変のものであることに気付かされます。

これからも、様々な場面で、ますます親子の心の交流が図られることを心から願っています。

鹿児島市教育委員会

こころの言の葉

～ 第 21 集　思いをのせた言の葉を　あなたへ ～

令和６年１月

編集・発行　鹿児島市教育委員会
〒 892-0816　鹿児島市山下町６－１
TEL (099) 227-1941　FAX (099) 227-3016

南日本リビング新聞社
〒 892-8515　鹿児島市泉町 14 － 1 リビングビル
TEL (099) 222-7288　FAX (099) 225-5009